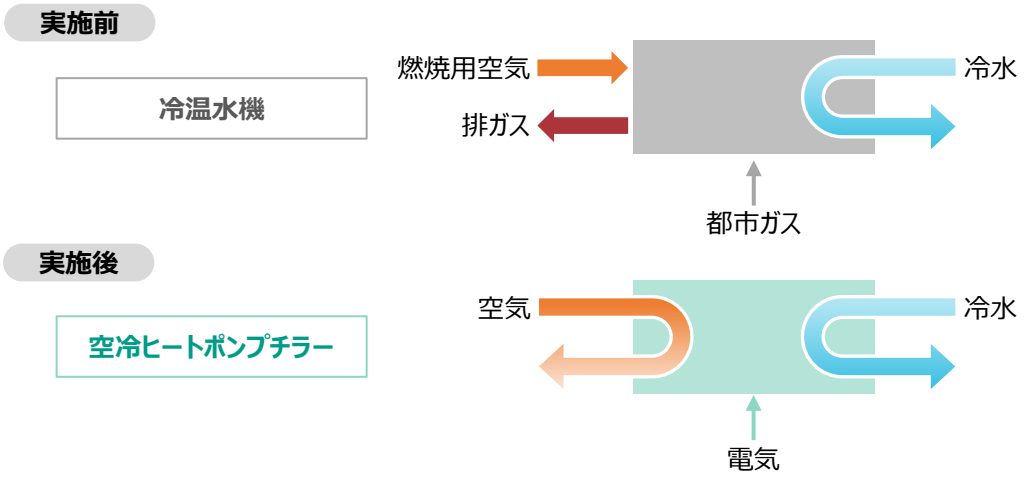
4.1 工場・事業場における先導的な脱炭素化取組推進事業〈設備更新補助事業〉

⑩宿泊施設における持続可能な設備更新とイメージアップ

事業概要

事業者概要	事業者名	株式会社観月苑
	業種	宿泊業
事業所	所在地	北海道
	総延床面積	11,109.78m^2
補助金額	補助金額	約3,116万円
	補助率	1/3
主な導入設備	従前設備	冷温水機、温水ボイラ、ファンコイルユニット
	導入設備	ヒートポンプ給湯機、空冷ヒートポンプチラー、ファンコイルユニット
事業期間	稼働日	2024年3月
区分		更新
特長		主な燃料を重油から電気へ転換したことで、重油漏れのリスクや煤煙が軽減され、環境負荷が低減したことで、周辺施設への影響の懸念がなくなった。さらに、エネルギー効率の向上により運用コストが削減され、固定費が縮減した。これに加え、CO_2削減とSDGsへの貢献が評価され、地域ブランド力の向上とイメージアップにも寄与している。

システム図



写真

ヒートポンプ給湯機



空冷ヒートポンプチラー



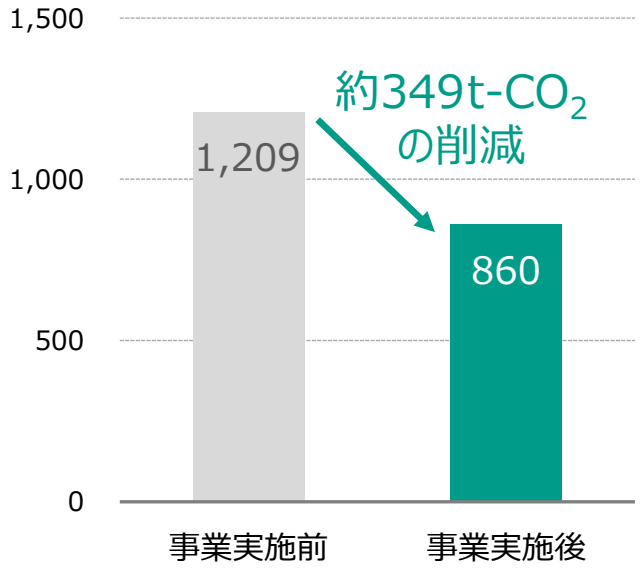
⑩宿泊施設における持続可能な設備更新とイメージアップ

事業の効果

エネルギーコスト削減額		約1,143万円／年
投資回収年数	補助あり	約5年
	補助なし	約7年

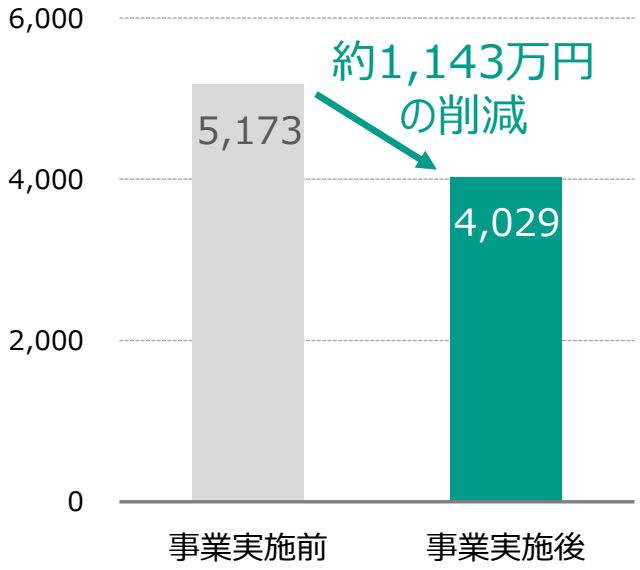
CO_2削減量	約349t-CO_2／年
CO_2削減コスト	5,900円／t-CO_2

CO_2排出量（t-CO_2／年）



コロナ禍が含まれる基準年度より、宿泊数が増加したが、新設備の導入と冷温水の出口温度調整により、年間CO_2排出量349トンの削減を実現した。

エネルギーコスト（万円／年）



ヒートポンプ給湯機、空冷ヒートポンプチラー、ファンコイルユニットの導入により、事業実施前と比べて年間1,143万円のエネルギーコスト削減が達成した。

【脚注】
※ ここに示す事業の効果は、A重油単価：102,458円／kL、都市ガス120,680円／千Nm³（出典：資源エネルギーHP）、電力単価：21.7円／kWh、
（出典：電力・ガス取引監視等委員会HP）、LNG：90,220円／t（大阪ガスHP）を用いて試算したものである。

⑩宿泊施設における持続可能な設備更新とイメージアップ

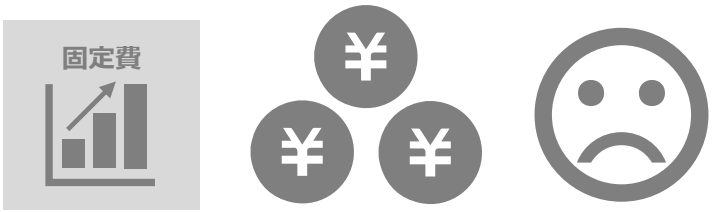
事業によって実現できたこと／事業前にあった課題及びその解決方法

■ **「ヒートポンプ給湯機、空冷ヒートポンプチラー、ファンコイルユニットの導入」によって、CO_2削減以外に、以下のような副次的効果があった。**

- エネルギー効率が向上した結果、運用コストが削減され、固定費が縮減した。
- 主な燃料を重油から電気へ転換することで重油漏れのリスクや煤煙が軽減され、環境負荷が低減し、周辺施設への影響の懸念がなくなった。
- CO_2削減を推進してSDGsに貢献する取り組みとしてPRすることで、地域ブランド力が向上し、イメージアップに寄与した。

固定費の縮減

実施前 設備老朽化や効率低下により、光熱費等の固定費が高い



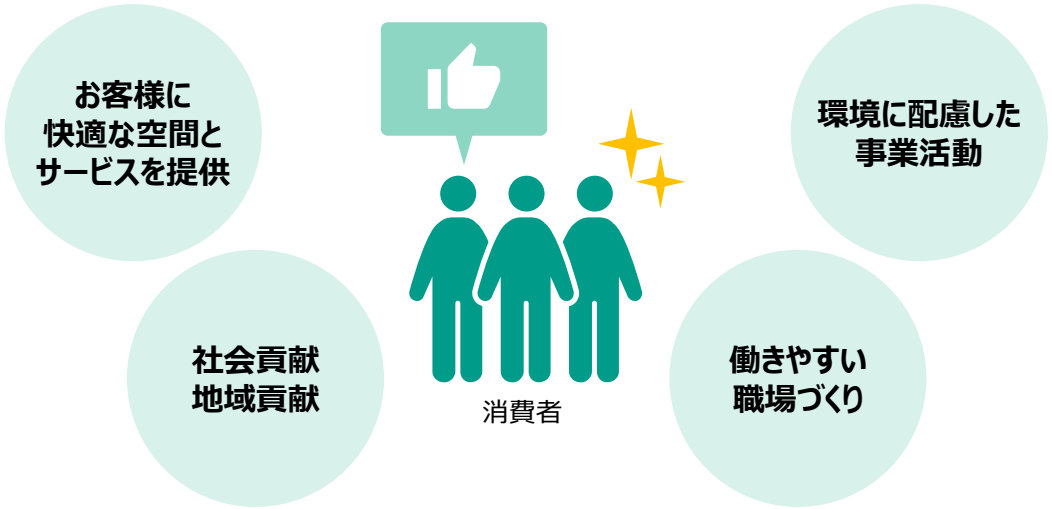
実施後 新設備の導入によりエネルギー効率が向上し、固定費が縮減



運用コストが削減され、固定費の縮減が実現した。

SDGsに貢献

実施後 自社のSDGs取り組みを、消費者にPRできる。



SDGsに貢献する取り組みとして地域ブランド力が向上し、イメージアップに寄与した。

⑩宿泊施設における持続可能な設備更新とイメージアップ

事業の経緯／今後の予定

2022.7	2023.1	2023.6	2024.1
情報入手	**決議**	**申請**	**完成**
設備が補助対象であることをコンサルティング企業経由で入手	社内決議にて補助事業申請を決定	自社営業企画部にて、補助事業へ申請	2023年10月から工事を開始し、翌年1月に工事完了

事業者の声



吉田　知存
株式会社観月苑　総務部　部長

- 重油から電気への設備の転換は数年前から少しずつ手掛けていましたが、全館の半分は重油を使用する設備でしたが今回補助金が利用できた事で残りの設備を電気へと転換ができました。
- 燃料費とCO_2の削減と客室から見える煙突から出るばい煙を大きく減少できた事が新しい設備を導入して良かった点です。